



小砂丘賞作文教育研究会がんばりました

12月12日(火)は、第38回「小砂丘賞作文教育研究会」が本校にて開催されました。本研究会は、「日本の作文教育の先駆者」と呼ばれた小砂丘忠義先生を生んだこの土佐の地に、生活に根ざした作文教育が発展することを願い、毎年、本県で開催されているものです。当日は、3年生と6年生が公開授業を行い、3年生は「家族」について書き作文、6年生は「地域」について書いた作文を取り上げ、それぞれの作文のよさや、作者の思いに迫る学習を行いました。

たくさんの参観者(約60名)がいる中でしたが、どちらの学年も物怖じすることなく、作者のやさしさやがんばり、地域を大切に思う気持ちについて気付いたことを積極的に伝え合うことができていました。参観の先生方からも、「よく育っていますね」「大変意欲的に取り組んでいますね」など、お褒めの言葉をたくさんいただきました。

今後も様々な場面で「書くこと」を大切に、自分や友達、家族や地域そして社会を見つめ、自己の成長につなげていってもらいたいと考えています。3年生・6年生、本当にすばらしかったです!



3年生



3年生



3年生



6年生



6年生



6年生

当日の作文を紹介します。

ぼくの弟

〇〇

ぼくには、弟が二人と妹が一人います。妹は、小学校一年生でわがままです。真ん中の弟は、すねっこでわがままです。

一番下の弟は、まだ八か月の赤ちゃんで、いろいろなことをします。つかまり立ちをしたり、かいだんをのぼったり、ハイハイでどこへでも行くことするので、目からはなせません。

この前、げんかんのドアを開けていたら、目ははなしたときに、ドアに向かってすごいスピードでハイハイをしていました。(あぶない)と思ったら、げんかにいたお母さんがとめてくれました。でも、弟は、ゆかで頭を打っていました。すぐくびっくりました。

弟と遊ぶときは、あぶなくないように、やわらかいボールをゆつくり転がします。ボールをつかまえて、気分がいいときはわらいます。とてもかわいいです。でも、ないたりすると、(お世話はいやだな。めんどくさいなあ。)と思います。

ごはんのときは、スプーンで食べさせてあげています。歯が四本生えていて、今は、りにゅう食を食べています。ぼくは、弟の口元についたごはんも上手に口の中に入れることができます。フルーツはすきだけど、メロンはきらいみたいです。

弟のお世話をすると、お父さんもお母さんも「ありがとう。」とか「すごい助かる。」と言ってくれます。少しうれしいです。

大きくなったら、いっしょにバスケットをしたいので、これからも、弟のお世話をしていきたいです。

4人兄弟の一番上の〇〇さん。特にまだ赤ちゃんの弟さんは、目がはなせないのですね。お世話をする〇〇さんのやさしい気持ちやがんばりが、とても伝わってきます。これからもお世話をして、お父さんお母さんを助けてあげてね。

残念なできごと

先日、学校の廊下に張り出しているポスターに落書きがあるのが見つかりました。そのポスターは、紛争等による貧困地域への募金活動「ユニセフ」のポスターで、海外の子どもの写真が載っているものです。このポスターに、人種差別にも繋がりがねない、心無い言葉が書かれていました。

子どもたちには、翌日の全校朝会で校長より話をしました。地球上には様々な人々が暮らしていて、それぞれ肌や髪の毛の色、言葉、文化などが違うこと。違いはあっても、それぞれが大切な存在であり助け合っていくことが大切で、人を傷つける言葉は絶対にいけないことであることなど。

日々の学校生活の中でも、友だちを傷つける言葉や、思ひやりに欠ける行動がまだまだ見られることがあります。他者を思いやることのできる児童の育成に向けて、引き続き取り組んで参ります。ご家庭でも折に触れてお話しいただけますと幸いです。



「国府っ子応援団」募集中！

「国府っ子応援団」の登録申し込みの返信が届いています。ありがとうございます！
締め切りを15日(金)としていましたが、引き続き募集いたしますので、ぜひともよろしく願いいたします。